

平成21年 心理臨床相談室の活動

1. 心理臨床相談室の位置づけとスタッフ

生活心理研究所は、大学院生活機構研究科の附属機関であり、人間社会学部心理学科と緊密に連携しつつ、臨床心理・社会心理・教育心理・認知心理・発達心理の5部門の研究を推進している。併せて当研究所附属の心理臨床相談室において、地域の方々に対して心理相談活動を行っている。この数年は、女性と子どものための相談室として丁寧な相談活動をしていることが地域に周知されて、相談者数は増加傾向にある。一方、生活機構研究科心理学専攻臨床心理学講座は、臨床心理士養成指定大学院第一種として認定されており、当相談室は、臨床心理士を目指す大学院生のための臨床実習機関としての役割も果たしている。大学院生は、受理面接の陪席と記録、心理検査の実施の他、相談室スタッフのスーパーヴァイズを受けながらケースを担当している。以前より、スーパーヴァイズは、1回の面接ごとに逐語記録に基づいて丁寧に行っているが、相談者数の増加に伴う大学院生の担当事例数の増加に対応して、今年度よりOG/OBを外部スーパーヴァイザーとして招き、スーパーヴァイズ体制の充実を図った。また、新たな地域貢献として、平成20年度よりNPO 昭和子育てステーションからの委託事業として、世田谷区在住の児童・生徒を対象とした発達相談を開設している。

平成21年度の相談室のスタッフは下記の通りである。

教授 (所長)	臨床心理士	藤崎 春代	准教授	臨床心理士	田中奈緒子
教授	臨床心理士	渡邊 佳明	准教授	臨床心理士	松永しのぶ
教授	臨床心理士	鶴養 啓子	助教	臨床心理士	木村あやの
教授	臨床心理士	島谷まき子	専任カウンセラー	臨床心理士	佐藤 昌子
准教授	臨床心理士	山崎 洋史	相談事務		鎌田せりあ
外部スーパーヴァイザー (いずれも、臨床心理士)					
伊藤 匡、川越 友美子、小山 慶子、田口 香代子、丹羽 三佳、根本 徳子					

2. 平成21年の相談概要 (平成21年心理臨床相談室統計参照、なお、19年度までは統計期間を4月1日から翌年3月31日までとしていたが、20年以降は統計を1月1日から12月31日までに変更した。20年は移行期として統計期間は4月1日から12月31日までである。)

最近4年間の相談概要は、表1～表4のとおりである。

21年の電話受付件数は143件であり、前年同様(前年は統計期間9カ月)増加傾向にある(表1)。本人および家族からの問い合わせの際には、昭和女子大学ホームページから情報を入手した人が多く、今後も、ホームページの充実を図っていききたい。また、今年は、他機関(主にクリニック)からの紹介が増えており、当相談室が地域の専門機関のネットワークに位置づいてきたことがうかがえる。一方で、相談体制の制限から、すべてのニーズに応じ切れているわけではない現状がある。今後も、質の高い相談活動を行うための整備を行うことが課題である。

電話受付のうち、新規受付につながったのは77件(表2今年度新規受付)とこれまでよりも増加している。

相談の内容別の件数(表3)をみると、来談者の年齢は幼児から成人まで幅広いことがわかる。子ども(19歳未満)の相談では、発達障害や発達障害が疑われる集団不適応や不登校・ひきこもりのケースが多い。成人の相談では、うつ症状・心身症などの症状をきっかけに来談するケースの他、家庭内のストレスを抱えるケースや、進路・将来・生き方・性格などについて整理し振り返るために来談するケースが前年に引き続き目立った。

のべ相談回数は706回であり、月平均59回にも及ぶ(表4)。カウンセリング・心理療法のほか、ケース状況に応じて、心理検査、関係機関との連携、紹介状・報告書の作成、本人への手紙、情報提供、訪問観察などきめ細かな対応を行った。子育て中の女性が安心してカウンセリングを受けられるよう託児も無料で行っており、好評を得ている。

17年度より発足した特別研究員制度により、今年度は12名の特別研究員が在籍していた。上記のように、相談件数が増加しているものの、在籍院生の実習充実を第一としたため、特別研究員がケースを担当することはできなかった。しかしながら、特別研究員を中心とする修了生たちが組織する相互研鑽のための研究会活動に対して、講師としての助言のほか、運営面への支援を行った。また、OG/OBによる外部スーパーヴァイズの実施は、在籍院生にとってのみでなく、臨床の場において中堅として活躍するOG/OBにとっても更なる力量形成の機会となっている。

(文責：藤崎春代)

平成21年 心理臨床相談室統計

表1 電話受付件数（新規）

内 容	18年度	19年度	20年	21年
本人及び家族からのインターク予約	26	48	59	61
関係機関からのケース紹介	5	4	11	27
電話相談のみで終了（他機関紹介等）	13	40	32	55
計	44	92	102	143

註)20年の統計期間は平成20年4月1日～12月31日まで

註)21年の統計期間は平成21年1月1日～12月31日まで

表2 受付件数

受 付	相談の対象	18年度		19年度		20年		21年	
今年度 新規受付	成人	16	30	19	40	23	48	42	77
	子ども（19歳未満）	14		21		25		35	
前年度からの継続	成人	11	24	7	17	10	20	12	21
	子ども（19歳未満）	13		10		10		9	
計		54		57		68		98	

註)20年の統計期間は平成20年4月1日～12月31日まで

註)21年の統計期間は平成21年1月1日～12月31日まで

表3 相談の内容（件）

相談の内容	幼児	小学生	中学生	高校生	成人	計			
						18年度	19年度	20年	21年
発達障害(LD・ADHD・自閉症等)	1	13	5	7	3	13	17	20	29
集団不適応(落ち着きなし・場面緘黙等)		5	1			6	3	3	6
不登校・ひきこもり	1	2	1			4	5	6	4
問題行動(リストカット・摂食障害等)						2	3	0	0
職場・学校などのストレス					3	5	7	2	3
家庭内のストレス(介護を含む)					15	7	8	6	15
うつ症状・心身症 等		1			17	8	6	12	18
進路・将来・生き方・性格				2	11	3	1	11	13
子育て不安	2	1	2		2	5	6	5	7
心理検査					3	1	1	3	3
コンサルテーション									
計	4(7)	22(19)	9(3)	9(6)	54(33)	54	57	68	98

註)20年の統計期間は平成20年4月1日～12月31日まで

()内の数字は20年の件数

註)21年の統計期間は平成21年1月1日～12月31日まで

表4 相談回数

内 訳		18年度		19年度		20年		21年	
カウンセリング・心理療法	成人	198	314	192	302	222	333	294	391
	()内は親子並行面接	(95)		(105)		(80)		(91)	
	子ども(19歳未満)	116		110		111		97	
集団心理療法		4		3		1		14	
心理検査		9		8		23		31	
電話でのカウンセリング		156		157		191		169	
コンサルテーション		5		2		1		4	
関係機関等との連携		9		6		18		18	
紹介状・報告書の作成		12		13		21		36	
本人への手紙		16		10		7		9	
情報提供		3		2		3		12	
託児		48		28		16		18	
訪問による行動観察		4		1		3		4	
計		580		532		617		706	

註)20年の統計期間は平成20年4月1日～12月31日まで

註)21年の統計期間は平成21年1月1日～12月31日まで

昭和女子大学 生活心理研究所とは…

生活心理研究所は、大学院生活機構研究科の附属機関として1995年4月に設立されました。心理臨床相談室では、悩みや問題を抱えている方にカウンセリングや心理療法などを行っています。



託児無料
大学院生がお世話させていただきます。

こ っ ぽ な 時

- うちの子
ちよつと育てにくいかも…
ことばが遅い わがまま
落ち着きがない
夜尿・爪かみ・チック
などのクセ
- LD・ADHD・
自閉症ではないか…
発達検査
医療機関へのかかりかた
- 最近子どもが変わった…
子どもが何を考えて
いるかわからない
元気がない
急に成績が下がった
- 学校生活が
うまくいかない…
学校に行きたがらない
勉強ができない いじめ
友だちと遊べない
- 子どもが
かわいく思えない



■担当カウンセラー

- ・初回は、女性の臨床心理士がお話をうかがいます。
- ・当相談室は、大学院生の臨床教育機関でもあります。継続のカウンセリングの場合には、臨床心理学を専攻する大学院生が担当させていただきますが、責任を持って指導いたしますのでご了承ください。



「一日に7人に会おうと幸せが訪れる」と言われています

●まずはお気軽にお電話ください

TEL 03-3411-5144

ご相談の内容によりましては、より適切な相談機関や医療機関をご紹介しますこともあります。

秘密は厳守いたします。

昭和女子大学 生活心理研究所とは…

生活心理研究所は、大学院生活機構研究科の附属機関として1995年4月に設立されました。心理臨床相談室では、悩みや問題を抱えている方にカウンセリングや心理療法などを行っています。



音楽に癒される
待合室



防音設備の整った面接室

こ ン ナ 時

心が疲れた…

人間関係 ストレス

元気が出ない

やる気が出ない

悩みがある…

生き方 仕事 恋愛

将来 結婚 健康

家族 子育て

自分自身を

見つめなおしたい…

自信がない 性格上の悩み

心理テスト

職業適性検査

託児無料

大学院生がお世話
させていただきます。

■担当カウンセラー

- ・初回は、女性の臨床心理士がお話をうかがいます。
- ・当相談室は、大学院生の臨床教育機関でもあります。継続のカウンセリングの場合には、臨床心理学を専攻する大学院生が担当させていただきますが、責任を持って指導いたしますのでご了承ください。



「一日に7人に会おうと幸せが訪れる」と言われています

●まずはお気軽にお電話ください

TEL 03-3411-5144

ご相談の内容によりましては、より適切な相談機関や医療機関をご紹介しますこともあります。

秘密は厳守いたします。

学校臨床に関わる事例検討会 2009年度活動報告

1. 会の目的

本検討会は、生活心理研究所の活動の一環として、昭和女子大学大学院生活機構研究科心理学専攻に属した教員や修了生を中心に構成され、会員が担当している主として児童・生徒に関わる事例の検討を通して、発達学校臨床に関わる人間としての資質の向上と識見を高めることを目的としている。

2. 研究会のメンバー構成

昭和女子大学大学院生活機構研究科心理学専攻の修了生のうち、第10期修了生5名、第11期6名。第12期4名から構成され、これに世話役として三浦香苗教授が常時出席し、また、助言者として平尾美生子元本学教授および田中千穂武蔵大学学生相談センターカウンセラー、木村あやの本学助教が参加している。

3. 活動内容

	開催日時	レポート内容	参加者
第1回	2009年4月18日 16:00～18:00	スクールカウンセラーの活動と特殊性	10名
第2回	2009年5月16日 16:00～18:00	適応指導教室に通う中3女子の事例について	12名
第3回	2009年6月13日 16:00～18:30	通常学級に在籍する小学校1年生の知的発達障害児	15名
第4回	2009年7月26日 16:30～18:30	異性交友で問題のある中学3年生女子の事例	10名
第5回	2009年9月26日 16:30～18:30	姿を見せない不登校生徒と変わることへの抵抗を示す母親への対応	8名
第6回	2009年10月25日 16:30～18:30	情緒的不安定な母親とともに生きるC子	8名
第7回	2009年11月28日 16:30～18:30	発達障害者の就労を支えるーアスペルガー症候群の男性とのかかわり	4名
第8回	2010年1月23日 16:30～18:30	不登校生徒の家族面接と担任との連携	8名
第9回	2010年3月13日 16:30～18:30	登校が安定しない外国籍児童への対応について	8名

4. 本年度活動の総括

比較的経験の浅い修了生が多く参加しているため、いかに自己の活動を意味付け、他との情報交換や連携を進めていくかに討論の中心があった。1年間の事例検討会を通して参加者の目覚ましい資質向上に驚くとともに、関係機関との連携の在り方、機関による把握の違いなどのついで知識を共有できた。また、学校教育期間以後の支援の在り方にも問題意識が拡大しつつある。

昭和女子大学心理臨床卒後研究会 2009年度活動報告

1. 会の目的

本研究会は、生活心理研究所の活動の一部として、昭和女子大学大学院（心理系）の修了生を中心に構成され、会員が担当している事例の検討を通して、心理臨床家としての知見・技術の向上をはかることを目的とした会である。

2. 研究会のメンバー構成

登録されている本学の修了生は計39名であり（3期生～11期生：2000年～2008年修了生）、3期生1名、4期生2名、7期生3名、8期生5名、9期生7名、10期生10名、11期生11名となっている。現在の所属分野は、教育領域13名、医療領域6名、福祉領域4名、大学院博士課程3名、その他・不明13名である。

3. 活動報告（各回）

回	開催日時	テーマ	講師名	出席者数
第1回	2009年6月26日（金） 19：00～21：30	事例検討「はさみ事件で心と身体を傷つけられた子とのプレイセラピー—安全な基地を求めて—」	鶴養啓子先生 (昭和女子大学大学院)	8名
第2回	2009年9月26日（土） 14：30～16：30	事例検討「対人関係の困難さから孤独感を抱える女性とのカウンセリング」	島谷まき子先生 (昭和女子大学大学院)	5名
第3回	2009年10月30日（金） 19：00～21：00	事例検討「過去に固執し、止まったままの男性とのカウンセリングについて」	稲富正治先生 (川崎幸クリニック)	6名
第4回	2009年11月28日（土） 13：00～16：00	講師による講義「効果的な面接作法 マイクロカウンセリングをもとにして」	秋山邦久先生 (越谷心理支援センター)	11名
第5回	2009年11月28日（土） 16：30～19：00	マイクロカウンセリングの実践ワーク	秋山邦久先生 (同上)	11名
第6回	2010年2月27日（土） 16：30～19：00	ソリューションフォーカストアプローチの実践ワーク	秋山邦久先生 (同上)	10名
第7回	2010年3月19日（金） 19：00～21：00	事例検討「家族から見捨てられた孤独感と寂しさを訴える女性とのカウンセリング」	山登敬之先生 (東京えびすさまクリニック)	6名

4. 今年度の活動全体のまとめ

今年度は3期生から11期生までの修了生が参加し、事例検討でのディスカッションや講義・ワークを通して、心理臨床家としての日常の活動を振り返り、学び合うことができた。